

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2000029801
PUBLICATION DATE : 28-01-00

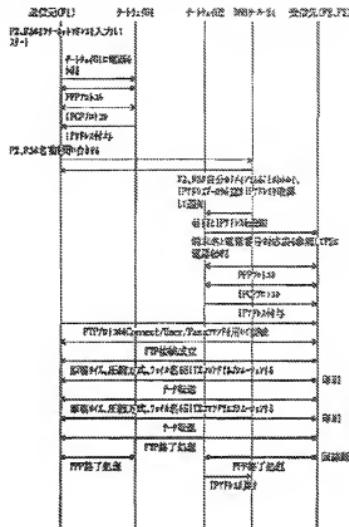
APPLICATION DATE : 15-07-98
APPLICATION NUMBER : 10216439

APPLICANT : RICOH CO LTD;

INVENTOR : YAMAMOTO SATORU;

INT.CL. : G06F 13/00 H04L 29/06 H04L 29/08
H04M 11/00 H04N 1/00 H04N 1/32

TITLE : FACSIMILE COMMUNICATION
SYSTEM



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To make it possible to transmit/receive facsimile(FAX) data through an inter-connection network(Internet) by connecting the FAX communication system to the Internet by a dial-up method.

SOLUTION: When a transmission side FAX equipment F1 is dialed up by a point-to-point protocol(PPP) and connected to receiving side FAX equipments F2, F3 through an internet consisting of a gateway G1, a domain name system(DNS) server 24 and a gateway G2, data transfer to the FAX equipments F2, F3 is executed by a file transfer protocol(FTP) of the internet one to one and a communication parameter is negotiated by a SITE command in the FTP. Thereby FAX data can be transmitted/received more safely than data transfer using a mail protocol, FAX communication can be executed by processing similar to a normal G3 protocol, and even in the case of a called party busy state or a communication error, a user can be surely informed of the state, so that usability can be improved while improving safeness and secrecy.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-29801

(P2000-29801A)

(43)公開日 平成12年1月28日(2000.1.28)

(51)Int.Cl ⁷	発明番号	F 1	ターボ ⁷ (参考)
G 0 6 F 13/00	3 5 1	G 0 6 F 13/00	3 6 1 C 5 B 0 8 9
H 0 4 L 29/08		H 0 4 M 11/00	3 0 3 5 C 0 6 2
29/08		H 0 4 N 1/00	1 0 7 A 5 C 0 7 b
H 0 4 M 11/00	3 0 3		1/32 Z 5 K 0 3 4
H 0 4 N 1/00	1 0 7	H 0 4 L 13/00	3 0 5 Z 5 K 1 0 1

審査請求 本請求 前求項の数2 F 1) (全7頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平10-216438

(71)出願人 0000067474

(22)出願日 平成10年7月15日(1998.7.15)

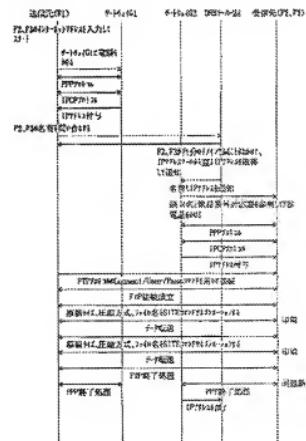
株式会社リコー
東京都大田区中馬込1丁目3番6号(72)発明者 山本 覚
東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式
会社リコー内Fターム(参考) 5B089 AA16 AA24 AB01 AC07 AX07
AD11 AF04 DD03
5C082 AA02 AA2M AB38 AC28 AC43
AE14 BA005C075 AB90 CA14 CD21 CD25
5K034 AA14 CC04 FF13 HH01 HH02
5K101 KK01 KK02 NN06 NN18 NN21
TT06 UU19 UU20 VV06

(54)【発明の名称】 ファクシミリ通信方式

(57)【要約】

【課題】本発明はダイアルアップ方式でインターネットに接続しインターネット経由でファクシミリデータの送信を行なうファクシミリ通信方式を提供する。

【解決手段】送信側のファクシミリ装置F 1がPPPプロトコルによりダイアルアップし、ゲートウェイG 1、DNSサーバーG 2及びゲートウェイG 3というインターネットを経由して受信側のファクシミリ装置F 2、F 3に接続されると、インターネットのF 1 PPPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置F 2、F 3と一对一でデータ転送を行なう。また、FTPプロトコルのS T Eコマンドにより通信パラメータのネゴシエーションを行なう。したがって、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全にファクシミリデータの送信を行なうことができるとともに、通常のC 3プロトコルと同様の処理でファクシミリ通信することができ、相手先ビバード通信エラーの場合にも、ユーザに確実にその旨を通知して、安全性と機密性を向上させつつ、利用性を向上させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】インターネットに接続可能なファクシミリ装置間でダイアルアップによりインターネットを経由してファクシミリ通信するファクシミリ通信方式であって、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのFTPプロトコルにより前記受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行うことを特徴とするファクシミリ通信方式。

【請求項2】インターネットに接続可能なファクシミリ装置間でダイアルアップによりインターネットを経由してファクシミリ通信するファクシミリ通信方式であって、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのFTPプロトコルにより前記受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行うとともに、当該FTPプロトコルのSFTPコマンドによりファクシミリデータの属性を通知することを特徴とするファクシミリ通信方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ファクシミリ通信方式に関し、詳細には、インターネット経由でファクシミリデータの送受信を行うファクシミリ通信方式に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、インターネットの普及に連れて、インターネットを利用し、電子メール、音声メール、ファックスメール及びインターネット電話が行われるようになってきている。

【0003】また、最近、ファックスモデム機能とデータモデム機能の双方の機能を備えたモデムが出現しており、ファクシミリ通信においても、このようなデータモデムを利用して通信が可能となっている。したがって、インターネットを利用してファクシミリ通信を行うには、従来のようにファックスモデムを経由して、T30プロトコルを使用して相手先と直接通信する場合と、データモデムを経由して相手先と直接通信する場合とが、可能となっている。ただし、データモデムを経由して相手先に直接ファックスデータを授受する場合には、通信費用等の面において利点はないが、データモデムを専用して、インターネット経由で通信する場合には、通信費用がプロバイダとの間の回線使用料のみとなるため、安価にファクシミリ通信を行うことができる。

【0004】ところが、現在、インターネットを利用したこれらのメールは、電話回線に接続されたコンピュータとコンピュータが当該電話回線に接続されたプロバイダを介して行われるようになっており、通常の電話機や

ファクシミリ装置を使用してインターネットを経由したメールの交換を行うことはできない。

【0005】すなわち、インターネットを利用して通信を行うには、プロバイダと呼ばれるインターネット接続業者と契約して、インターネットアドレスを取得する必要があり、また、プロバイダ経由でインターネットに接続するには、通常PPPプロトコルとTCP/IPプロトコルが用いられるが、これらのプロトコルは、RFC1661とRFC1332で規定されている。

【0006】そこで、従来、既存の電話やファックスを使ってメッセージの送受信できるように、電話回線とインターネットの接続点を送信側と受信側の両側に設けて、その接続点にインターネット通信機能と電話応答機能を備えたホストコンピュータを設置し、受信者の電話番号だけで受信者に最も近いホストコンピュータ名が検索できるように、国番号、市外局番号、市内局番号を検索キーとしたホストコンピュータ名検索用インデックスを行い、設置したホストコンピュータ上でこれらを自動的に制御する電話及びファックスのメッセージシステムが提案されている(特許3029827号公報参照)。

【0007】すなわち、このメッセージシステムは、ホストコンピュータで電話及びファックスのメッセージデータを一旦蓄積して、ファクシミリプロトコルとインターネットプロトコルを変換した後、転送相手を検索して、検索した転送相手にプロトコル転送を行っている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来のメッセージシステムにあっては、ホストコンピュータで電話及びファックスのメッセージデータを一旦蓄積して、ファクシミリプロトコルとインターネットプロトコルを変換した後、転送相手を検索して、検索した転送相手にプロトコル転送を行っているため、電話やファクシミリ通信においては、本来1回の通信であるものが、複数の通信に分けられてしまい、インターネットを経由した後の相手との通信が正常に行われるか否かが保証されない結果となり、通信の安全性において問題であった。

【0009】また、上記従来のメッセージシステムにあっては、いわゆるパケッジレー方式であるメールプロトコルを用いているため、通信経路の途中のメール中継装置において障害が発生すると、メールの内容が当該メール中継装置の管理者に嗅かれるおそれがあり、データの機密性を確保する上で問題であった。

【0010】そこで、請求項1記載の発明は、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行うことにより、パケッジレー方式ではなく、インターネット経由でファクシミ

表面層で一対一でデータ転送して、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全にファクシミリデータの送受信を行うとともに、インターネット経由による通信料金の廉価性を利用し、粗利手がビギーであったり、通信エラーが発生した場合にも、ユーザーに確実にその旨を通知して、安全性と操作性を向上させつつ、利便性を向上させることができるとともに、通信費を低く抑えることのできるファクシミリ通信方式を提供することを目的としている。

【0011】請求項2記載の発明は、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのF-FTPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのF-FTPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行うとともに、当該F-FTPプロトコルのACKにスマップによりファクシミリデータの属性を通知することにより、パケッタリエー方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間で一対一でデータ転送して、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全かつ正確にファクシミリデータの送受信を行おうとともに、通常のG3クラスのファクシミリ通信手法と組合せた通信手段でインターネット経由によるファクシミリ通信を行えるようにし、安全性と機密性を向上させつつ、利便性をより一層向上させることができるとともに、通常音質を低く抑えることのできるファクシミリ通信方式を提供することを目的としている。

[0012]

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明のファクシミリ通信方法は、インターネットに接続可能なファクシミリ装置間でダイアルアップによりインターネットを経由してファクシミリ通信するファクシミリ通信方式であって、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのポートアートコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのドロップコントロルにより別途送信側ファクシミリ装置と一对一でデータ転送を行ふことにより、上記目的を達成している。

【0013】上記構成によれば、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、該装置インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのTCP/IPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行っているので、バケツリレー方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間でデータ転送して、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全にファクシミリデータの送受信を行うことができるとともに、インターネット経由による通話費用の廉価性を利用することができます、相手がビギニアであったり、送信エラーが発生した場合にも、ユーザに確定的にその旨を通知して、安全性と機密性を向上させつつ

利用性を向上させることができるとともに、通信費を低く抑えることができる。

【001-4】請求項2記載の発明のファクシミリ通信方式は、インターネットに接続可能なファクシミリ装置間でダイアルアップによりインターネットを経由してファクシミリ通信するファクシミリ通信方式であって、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのIPアドレスとポート番号によりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのIPアドレスにより尚記受信側ファクシミリ装置と一緒にデータ転送を行うとともに、当該PTPプロトコルのS T T Eコマンドによりファクシミリデータの属性を通知することにより、上記目的を達成している。

【0010】上記構成によれば、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続される。インターネットのPPPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置と一对一でデータ転送を行うとともに、当該PPPプロトコルのSITEコマンドによりファクシミリデータの属性を通知するので、パケツリレー方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間で一对一でデータ転送し、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも公企から安価にファクシミリデータの送受信を行うことができるとともに、通常のG3クラスのファクシミリ通信手順と同様の通信手順でインターネットを経由したファクシミリ通信を行なうことができる。安全性と機密性を向上させつつ、利用性をより網向上させることができるとともに、通信費を安く抑えることができる。

190161

【発明の実施の形態】以下、本発明の好適な実施の形態を添付図面に基づいて詳細に説明する。なお、以下に述べる実施の形態は、本発明の好適な実施の形態であるから、技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の範囲は、以下の説明において特に本発明を限定する旨の記載がない限り、これららの種々に限られるものではない。

【0017】図1～図3は、本発明のファクシミリ通信方式の一実施の形態を示す図であり、図1は、本発明のファクシミリ通信方式の一実施の形態を適用した通信システム図である。

【0018】図1において、通常システム1は、いま、ファクシミリ装置F1とファクシミリ装置F2、あるいは、ファクシミリ装置F1とファクシミリ装置F3がインターネットを利用して、ファクシミリ通信するものとし、ファクシミリ装置F1がインターネットの接続装置(プロバイダ)であるケーブルウェイG1と契約しており、ファクシミリ装置F2とファクシミリ装置F3がケーブルウェイG2と契約しているものとする。

【0019】ファクシミリ装置F1は、ダイアルアップ1/F (Dial up 1/F) によりISDN (Integrated Services Digital Network: サービス総合デジタル網) あるいはPSTN (Public Switched Telephone Network: 公衆電話網) 等の回線L1を介してゲートウェイG1に接続され、データモデルあるいはISDNによるPPP (Point to point Protocol) + TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 接続を行う。これらファクシミリ装置F1、回線L1及びゲートウェイG1はドメイン1に属している。

【0020】ファクシミリ装置F2は、インターネット1/Fを経ており、インターネット1/Fを介してゲートウェイG2に接続されている。

【0021】ファクシミリ装置F3は、ダイアルアップ1/F (Dial up 1/F) によりISDNあるいはPSTN等の回線L2を介してゲートウェイG2に接続され、データモデルあるいはISDNによるPPP+TCP/IP接続を行う。

【0022】これらファクシミリ装置F2、ファクシミリ装置F3、回線L1,2及びゲートウェイG2はドメインD2に属している。

【0023】ゲートウェイG1とゲートウェイG2は、ドメインD1を介して接続されている。ゲートウェイG1は、ダイアルアップ1/F 1 1 やインターネット1/F 1 2, 1 3等を備え、DNS (Domain Name System) サーバー1-4に接続されている。ゲートウェイG1は、ダイアルアップ1/F 1 1を介して回線L1に接続されているとともに、インターネット1/F 1 3を介してドメインD1に接続されており、インターネット1/F 1 2に接続されたDNSサーバー1-4に管理されて、IPアドレス (Internet Protocol) の割り当てやIPアドレスを電子メール・アドレスへの変換等の通常のゲートウェイとしての処理を行い、また、後述するインターネットを介したファクシミリ通信制御処理を行う。

【0024】ゲートウェイG2は、ダイアルアップ1/F 2 1及びインターネット1/F 2 2, 2 3等を備え、DNSサーバー2-4に接続されている。ゲートウェイG2は、ダイアルアップ1/F 2 1を介して回線L2に接続されているとともに、インターネット1/F 2 3を介してドメインD1に、また、インターネット1/F 2 2を介してファクシミリ装置F2に接続されている。ゲートウェイG2は、インターネット1/F 2 2に接続されたDNSサーバー2-4に管理されて、IPアドレスの割り当てやIPアドレスを電子メール・アドレスへの変換等の通常のゲートウェイとしての処理を行うとともに、後述するインターネットを介したファクシミリ通信制御処理を行う。特に、ゲートウェイG2は、IPアドレスプールとIPアドレス表を記憶するアドレスデータベースを備えており、ファクシミリ装置F2やファクシミリ装置F3のアドレス設定を行う、このアドレスデータベ

ースは、例えば、図2に示すように、ファクシミリ装置F3等の端末名と電話番号を対応させたものである。なお、図示しないが、ゲートウェイG1も、ゲートウェイG2と同様に、アドレスデータベースを備えており、ファクシミリ装置F1等のアドレス設定を行う。

【0025】次に、本実施の形態の作用を説明する。いま、通信側のファクシミリ装置F1から受信側のファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3にインターネットを経由してファクシミリ送信を行うものとして、以下説明する。

【0026】ファクシミリ装置F1からファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3はインターネットを経由してファクシミリ送信を行う場合、ファクシミリ装置F1とファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3との間でリンクを張り、リンクが形成されると、ファクシミリデータのデータ送信を行うこととなる。そして、プロバイダ経由でインターネットに接続するには、通常、PPPプロトコルとICPC (Internet Protocol Control Protocol) プロトコルが用いられ、これらのプロトコルは、RFC 1661とRFC 1332で規定されている。

【0027】すなわち、ファクシミリ装置F1からファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3にインターネットを経由してファクシミリ送信する場合、ファクシミリ装置F1のプロバイダであるゲートウェイG1とファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3のプロバイダであるゲートウェイG2を経由でリンクを張ることとなる。

【0028】いま、ファクシミリ装置F2は、インターネット1/Fを介して当該ファクシミリ装置F2の属するドメインD2に常時接続されているので、ファクシミリ装置F1からファクシミリ装置F2にファクシミリ送信する場合には、ファクシミリ装置F1は、ゲートウェイG1にPPPプロトコルによりダイアルアップ接続するだけで、リンクを張ることができる。

【0029】ところが、送信側のファクシミリ装置がファクシミリ装置F3のように、当該ファクシミリ装置F3の属するドメインD2にダイアルアップ接続されているときには、ファクシミリ装置F1は、最初にゲートウェイG1にPPPプロトコルによりダイアルアップ接続して、ファクシミリ装置F3からファクシミリ装置F3のIPアドレスの問い合わせを行い、この問い合わせに對して、ファクシミリ装置F3の属するドメインD2において、DNSサーバー2-4がファクシミリ装置F3へ割り当てる予定のIPアドレスを答える。そして、ファクシミリ装置F1は、DNSサーバー2-4の答えたアドレスをゲートウェイG2に教えて、ゲートウェイG2からファクシミリ装置F3へ電話をかけさせ、先に応答したIPアドレスをファクシミリ装置F3へ割り当てる手順を実行する。

【0030】すなわち、図3に示すように、ファクシミリ装置F3のオペレータが、ファクシミリ装置F3のインターネットアドレスを入力して、ファクシミリ装置F1をスタートさせると、ファクシミリ装置F1は、インターネットアドレスの形式が電話番号とは明確に異なるため、ユーザがインターネット経由での接続を希望していると判断することができる。そして、ファクシミリ装置F1は、プロバイダのゲートウェイG1の電話番号は固定であるため、この電話番号を内部メモリから取り出してゲートウェイG1へ電話をする。

【0031】電話番号がないと、ファクシミリ装置F1とゲートウェイG1との間で、PPPプロトコルによりリンクを張る。

【0032】次に、ファクシミリ装置F1とゲートウェイG1とでリンクが形成されると、ゲートウェイG1は、IPCPプロトコルアドレスを用いてファクシミリ装置F1にインターネットアドレスを付与する。

【0033】ゲートウェイG1からインターネットアドレスをもらったファクシミリ装置F1は、ユーザが入力したファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3のアドレスを目的地アドレスとしてFTP (File Transfer Protocol) 接続を試みるパケットをインターネット上に渡す。

【0034】このとき、上述のように、ファクシミリ送信者がファクシミリ装置F2のように、常時インターネットに接続されており、そのアドレスが、IPアドレスそのものであれば、直接接続できるが、ファクシミリ装置F3のように、ダイアルアップ接続でアドレスが名前の場合には、DNSシステムD2を介してファクシミリ装置F3のIPアドレスを取得する必要がある。

【0035】すなわち、相手ファクシミリ装置がファクシミリ装置F2のように、常時、インターネットに接続されている場合には、FTPプロトコルでの接続が可能となる。

【0036】ところが、相手ファクシミリ装置がファクシミリ装置F3のように、ダイアルアップ接続の場合には、ゲートウェイG2とファクシミリ装置F3との接続が必要になる。この場合には、ファクシミリ装置F1が発したパケットがインターネット上を流れていき、ゲートウェイG2が自分のドメインD2上にあるアドレスであると、当該パケットを取り込む。

【0037】ゲートウェイG2は、取り込んだパケットがDNSパケットであると、自分のドメインD2のDNSサーバーD2に当該パケットを渡し、DNSサーバーD2は、ファクシミリ装置F3に対応するIPアドレスあるいは4割り当て可能なIPアドレスをゲートウェイG2に返す。

【0038】次に、ゲートウェイG2は、DNSサーバーD2からIPアドレスと名前が返されると、自分のドメインD2のダイアルアップ接続の場合の端末の電話番

号と名前を対応付けた端末名と電話番号対応表であるアドレスデータベース（図2参照）を参照して、ファクシミリ装置F2へ電話をかけて、PPPプロトコルによりリンクを張り、その後、IPCPプロトコルでIPアドレスを割り当てることにより、ファクシミリ装置F3との接続が完了する。

【0039】ファクシミリ装置F1とファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3の名前とIPアドレスの対応付けがなされた後は、ファクシミリ装置F1がFTPプロトコルのCommandコマンドによりファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3との接続を試みることになる。

【0040】通常のFTPプロトコルの場合は、やり取りするデータのファイル名とモードを指定すればよいことになるが、ファクシミリデータの場合、相手との間で原稿サイズ、圧縮方式及び走査線密度等の通信パラメータをネゴシエーションする必要がある。

【0041】T30プロトコルの場合では、DTS（デジタル鍵削除信号）/DCS信号（デジタル命令信号）でネゴシエーションするが、FTPプロトコルの場合、SITEコマンドとして実装することで、必要なパラメータをネゴシエーションすることができる。

【0042】例えば、ファクシミリ装置F1は、FTPプロトコルのSITEコマンドに、「ファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3の出力可能原稿サイズを確認する」という引数を付けてファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3に送りし、ファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3は、これに対して自分の出力可能原稿サイズを応答し、ファクシミリ装置F1は、これを受けてこれからデータ転送を行う原稿サイズをファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3に通知する、という手順を行うことになる。

【0043】このネゴシエーションで、不一致が起ると、通信は成立しないため、ファクシミリ装置F1は、即座にエラーであったことが分かる。

【0044】以上により、ファクシミリ装置F1とファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3は、直接論理リンクを張ったファクシミリデータの通信、すなわち、一对一の通信が可能となる。

【0045】そして、ファクシミリ装置F1は、送信が終了すると、ファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3に対して終了コマンドを発し、終了コマンドを受けたファクシミリ装置F2あるいはファクシミリ装置F3は、FTPのリンクを閉鎖した後、ゲートウェイG2との間でPPPのリンクを終了するためのネゴシエーションを行って、回線を切断する。

【0046】ファクシミリ装置F1は、上記終了コマンドを送り出で、FTPのリンク終了が成立すると、ゲートウェイG1との間で、PPPのリンクを終了するためのネゴシエーションを行い、回線を切断する。

【0047】以上の接続手順及びファクシミリ通信手順は、ISDNを介したダイアルアップ接続においても同様である。

【0り48】このように、本実施の特徴のファクシミリ通信方式においては、送信側のファクシミリ装置F1がダイアルアップのP-F-Pプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側のフ

アクシミリ装置P2、F3に接続されると、インターネットのFTPアプロトコルにより受信側ファクシミリ装置P2、F3と一緒にデータ転送を行っている。したがって、ペガソスリレー方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間で一对一でデータ転送して、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全にファクシミリデータの送受信を行なうことができるとともに、インターネット経由による送信料金の機密性を利用することができます。相手先がビジーであったり、通信エラーが発生した場合にも、ユーザーが確実にその旨を通知して、安全性と機密性を向上させつつ、利用性を向上させることができますとともに、専用機を併用する必要があることがない

【0049】また、FAXプロトコルのS-LITEコマンドによりファクシミリデータの属性を通知しているので、通常のG3クラスのファクシミリ通信手順と同様の通信手順でインターネットを経由したファクシミリ通信を行うことができ、利用性をより一層向上させることができ。』

【(10) 5】以上、本発明者によってなされた発明を好適な実施の形態に盐づき具体的に説明したが、本発明は上記のものに限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。

1005-13

【発明の効果】請求項1記載の発明のファクシミリ通信方式によれば、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのPPPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置と一対一でデータ転送を行っているので、パケッタリ方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間で一対一でデータ転送し、メールアドレス毎に複数のファクシミリ装置に送らなければなり

ファンシミリーダーの返受信を行うことができるとともに、インターネット経由による通常費用の簡便性を利用することができる。粗手先がビーザであったり、通風によってが発生した場合にも、ビーザに確実にその旨を通知して、安全性と機密性を向上させつつ、利便性を向上させることができるとともに、通常費用を低く抑えることができる。

【10052】請求項2記載の発明のファクシミリ通信方式によれば、送信側ファクシミリ装置がダイアルアップのPPPプロトコルによりインターネットに接続し、当該インターネットを経由して受信側ファクシミリ装置に接続されると、インターネットのFTPプロトコルにより受信側ファクシミリ装置と一对一でデータ配信を行うとともに、当該FTPプロトコルのSFTPモードにデータを送信する際にファクシミリデータの属性を通知するので、バッファリ方式ではなく、インターネット経由でファクシミリ装置間で一对一でデータ転送して、メールプロトコルを用いたデータ転送よりも安全かつ安価にファクシミリデータの送受信を行うことができるとともに、通常のFAXクラスのファクシミリ通信手順と同様の通信手順でインターネットを経由したファクシミリ通信を行うことができ、安全性と機密性を向上させつつ、利用性をより向上にさせることができるとともに、通信費を低く抑えうことができる。

1400の漢字を説明

【図1】本発明のファクシミリ通信方式の一実施の構成図

【図2】図1のゲートウェイの備えているアドレスデータベースの一個を示す

【図3】図1の通信システムによるインターネットを経由するリンク：ヨリ通信手段を示す

「本屋の説明」

1 通信システム

11.3.1 ダイアルアップ1/E

12, 13, 22, 23 1

14.24 DNSサーバー

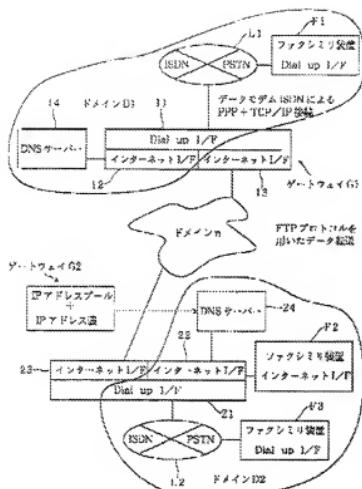
D1, D2, Dn フメイン

■ 1, ■ 2 ファクシミリ装置

G1, G2 ゲートウェイ

L1, L2 回線

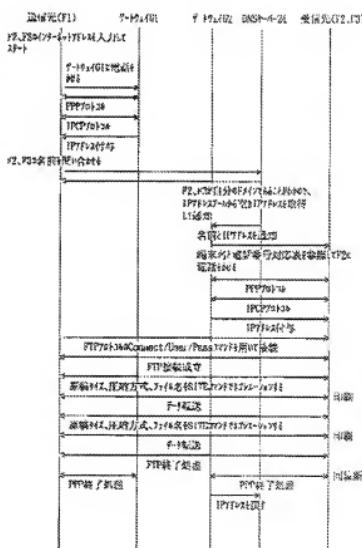
【図1】



【図2】

請求名	電話番号

【図3】



フロントページの範囲

(5) int.01.7
H04N 1/32

識別記号

F1
H04L 13/00

(参考)